

創部者の思いを感じよう

ポート古稀

皆さん、お懐かしゅうございます。

今日は、私のために、このように晴れ晴れし「会を開いていただき、感謝にたえせん。おまけに、家族同伴で、招待にあずかり、二重に感激しております。この日は、私の生涯で一度だけのものだと思います。少しおしゃべりするところをお許し下さい。唐の太宗は、唐三百年の繁栄の基を築いた名君であります。或る時、侍臣に尋ねました。「創業と守成とどちらがむずかしいと思いませんか。」「創業」というのは、基礎を定めること、伝統を作ることでもいいでしょう。「守成」とは、伝統を守り維持することです。守成は、「創業がむずかしい」と答えました。魏徴は、「守成がむずかしい」と叱りました。太宗は、さすがの名君でありました。「守成は、創業時代に不安を続けたから、創業がむずかしい」と言っています。魏徴は、守成に苦心を重ねるから、守成がむずかしいと言っています。しかし、創業の時代はすでに過ぎた。これからは守成の時期に入る。唐で刀を合わせて、守成の業をやり抜こう。と、取りまとめたのであります。

メネ、廿日市R・Cの皆さんは、創部三十年になりますね。宮島口には立派な艇庫を建て、競艇艇もたくさん持っている。三十年の間、全国大会が国民体育大会に欠かす出陣している。中国大会では優勝したことも一回ある。もう廿高のポートは、学校生活の中しつかり根を下してしまっただけ。これは、まことに立派な伝統であります。しかし、また一度も、全国大会や国体で入賞したということがない。廿日市R・Cの皆さんは、今一つ高いレベルの伝統を作ることが求められていると思えます。

次に、皆実柏漕会の皆さんは、一昨年、中国大会・全国大会・国民体育大会で全部優勝しました。しかもこの優勝は、予選から決勝まで、常に一位をキープした優勝でした。完全優勝とは、こういうのを言うんでしょう。この栄光が機軸となって、県営艇庫建設の議が持ち上がり、ついにこの創業を成し遂げました。柏漕会の皆さんは、創部以来二十五年、営々辛苦の末、やっとこの創業を成し遂げました。偉大な伝統は作つなければ、まことに奇跡なことですが、自分の住むべき家―艇庫―というものを持つていません。競艇艇も余り多くはない。柏漕会の皆さんは、物質的な面の整備充実を図るという重大課題があると思えます。

次に、舟入の太田川R・Cの皆さんは、昭和三十六年に中国大会で優勝し、余勢をかって、秋田の国民体育大会で準優勝をかちとりました。創部六年目の快挙であり、県民の誇りでありました。ところが、その翌年、学校当局は強引に廃部の処断を下したのであります。私は当時すでに、廿日市高校に転出しておりましたが、前監督の不徳の至手所ではなかったかと、深く反省いたしました。にもかかわらず、四十四名のOBの皆さんは、深田一夫君を会長に、毎年例会を開いて、友情を温めてきました。中庸に「君子は其の位に素して行ふ」とあります。この席にも「素行」という名の人がおられる。江戸時代の有名な儒学者であり、兵衛老若もある山鹿素行先生は、皆さんよく「素行の通りであります。」「素行」とは、その時々の所において、信じる道を行っていく意味であります。太田川R・Cの皆さんは、ポートで養った精神や態度を日常生活の中に生かしておられる。私は、このポート精神に脱帽する者の一人であります。しかし、残念なことに、このポート精神もまだ、母校に漕艇部を復活させるまでには至っておりません。

このように見てきますと、舟入も皆実も廿日市も、むずかしい課題を背負っていることを感じます。私は、創業一筋に苦勞を繰り返しましたが、皆さんは、創業と守成と、二つの重荷を同時に背負っておられる。これは大変な苦勞であります。先陣、テレビを見ておられますと、東京都の豊田区では、区内の中学校にポート活動をさせている。そうして、あのゆかりの豊田川で対抗レースを聞く、将来は、中体連の全国大会にポートの種目を設けたいということでもあります。廿日市でも、小学校の児童にカヌーを漕がしている。指導者は、マルニ木工の住田さんです。そうして、将来の目標は、全国大会に出場することです。

広島も、豊か川と海に恵まれているので、この自然環境を生かして、大いに水上スポーツを興したらどうでしょう。観覧船を運航するのでも大いに結構ですが、もっとこの自然の恵みを市民生活に密着させて、市民のための水上スポーツを興す。近ごろは、海運界不況により、連絡船やタンカーを廃船にするということをよく聞く。あれをただでむらつきで、川や海のそばにたかつかつと橋を、艇庫に改造する。そうして、市内の中学生や高校生にポートを漕がす。一般にも職域にも開放する。そうして、盛大な「広島レガッタ」の祭典を繰り展げる。



皆実高漕艇部は1947年、柄松(からまつ)香先生(国語)と有志で、同好会として創立しました。この手記は、柄松先生が1992年に書かれた「歌集 香影」からのものです。1989年の全国優勝を機に、皆実艇庫が作られました。その建設より前に書かれたものです。

歌集 香影
平成四年五月二十五日発行
著者 柄松 香

(平成二年八月二十三日 広島厚生年金会館にて)

古愼な夢だと思われながらも知れませんが、夢がなければ創業がない。夢によつて若少年も年寄りも生き生きしてきます。人間も生活も文化も活性化します。世界的・平和的都市を標榜する「ひろしま」の面白く活性化のために、三枚の皆さんが結成し、県漕艇協会を盛り立てて、是非ともポートの普及・発展を推し進めていきたいと思います。

本日、二に、艇庫をたどりました。監督やコーチ各位、祝電、祝辞、祝儀などお寄せいただきました。諸先輩、私のポート航海の随時随所において、陰に陽に「指教」を頂戴いたしました。諸先輩の御様に、この場をかりまして、謹んで厚く御礼を申し上げます。下手の長段巻をよく、辛抱くございました。皆さんの「志」を生連の宝物として大切にいたします。本日はありがとうございました。